

企業の技術を農業分野に 展開するためのポイント

～「農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立実証プロジェクト」の3つ事例を通じて理解する～

- 日 時■ 2016年 8月26日(金) 14:00～17:00
- 会 場■ 企業研究会セミナールーム(東京・麹町)
- 講 師■ ●あずさ監査法人 パブリックセクター本部
マネージング・ディレクター 原誠 氏
- シーアイマテックス株式会社 アグリプロジェクト推進部 川村享司氏
- 株式会社大和コンピューター 代表取締役社長 中村憲司氏
- 高知県 農業振興部 産地・流通支援課次世代園芸推進室長 岡林俊宏氏

◆ 開催にあたって

現在、国が進める成長戦略の柱のひとつに農業の生産性拡大があります。その鍵となるのが企業と農業者の連携といわれており、農業者の潜在ニーズをくみ取り、企業の技術シーズを活用して課題を解決することが重要だと考えられています。2014年から農林水産省による「農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立実証プロジェクト」が進められており、本セミナーでは、プロジェクトの3つの事例について解説します。事例を通じて、自社の技術を農業展開する場合にどのような形で進めればよいかのヒントを得ていただく機会としてご活用ください。

《プログラムは裏面をご覧ください》

●受講料●1名(税込み、資料代含む)

| | |
|-----|-------------------|
| 正会員 | 5,400円 本体価格5,000円 |
| 一般 | 7,560円 本体価格7,000円 |

- 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてにFAXいただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。
- 申込書をFAXにてご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。
- 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕をご参照下さい。
- お申込み後のキャンセルは原則としてお受けいたしかねますので、お申込者様がご出席できない場合には、代理の方のご出席をお願い申し上げます。
- 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきますことでもありますので、ご了承下さい。

一般社団法人企業研究会

担当：倉島 E-mail: kurashima@bri.or.jp
〒102-0083
東京都千代田区麹町 5-7-2 2F
TEL 03-5215-3515 FAX 03-5215-0951

*お客様の個人情報は本研究会に関する確認・連絡および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

一般社団法人企業研究会 セミナー事務局宛 FAX 03-5215-0951

*当会ホームページ(<http://www.bri.or.jp>)からもお申込みいただけます。
*FAXでご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

| | | |
|------------------------------|------|-----------|
| 161530-0110 | ※ | 2016・8・26 |
| [申込書] 企業の技術を農業分野に展開するためのポイント | | |
| 会社名 | フリガナ | |
| 住所 | 〒 | |
| ご氏名 | フリガナ | 所属 役職 |
| TEL | FAX | |
| E-mail | | |

企業の技術を農業分野に展開するためのポイント

～「農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立実証プロジェクト」の3つ事例を通じて理解する～

8月26日(金)

● プログラム ●

14:00

1. 「農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立実証プロジェクト」概要と企業による農業分野での連携における成功ポイント

講師：あずさ監査法人 パブリックセクター本部

マネージング・ディレクター 原誠氏

【講師紹介】 東京大学教育学部教育心理学科卒業後、長銀総合研究所に入所。その後、外資コンサルティングファームを経て現職。平成21年東京大学情報学環特任研究員、平成25年から立命館大学技術経営戦略研究センター客員教授などを務める。また現在、農業界と経済界の連携による先端モデル農業確立実証事業のプロジェクトリーダーを務める。

2. 「農家目線のXハウス トマトプロジェクトに於ける企業連携」

- 1) Xハウス トマトプロジェクトの概要
- 2) トマト50t 穫りのハードルと課題
- 3) 農業参入する企業と農業者のあり方に関して

講師：シーアイマテックス株式会社

アグリプロジェクト推進部 川村享司氏

【講師紹介】 1981年4月(昭和56年)現企業の前身の伊藤忠肥料農材販売㈱に入社し、農業資材部門に配属されて以来、施設園芸資材始め農業関連資材の販売に携わり、東京・仙台・名古屋・大阪支店を経て現在に至る。

3. 「メロン養液栽培による循環型農業確立コンソーシアムの事例」

- 1) 構成員の事業紹介
- 2) 土耕栽培メロンにおける課題と本プロジェクトの期待効果
- 3) 実施状況及び今後の展開

講師：株式会社大和コンピューター 代表取締役社長 中村憲司氏

【講師紹介】 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科修士課程修了。昭和59年日本アイビーエム株式会社入社。昭和62年株式会社大和コンピューター入社。平成14年株式会社大和コンピューター 代表取締役就任 現在に至る。農業分野の取り組みについては、平成20年8月 農業部門を設け、ITで結ぶ「i-農業」を目指す。平成21年3月 静岡県袋井市にてメロンの生産を開始。

4. 「電解水素水を活用した還元野菜プロジェクト」

- 1) 電解水素水の魅力と農業分野への応用の可能性(収量性の向上+機能性の向上)
- 2) 産学官民連携による還元野菜のブランド化に向けて
- 3) 新たなアグリビジネスの展開と地域産業クラスター形成へ

講師：高知県 農業振興部 産地・流通支援課次世代園芸推進室長 岡林 俊宏氏

【講師紹介】 北海道大学農学部卒、高知県庁入庁後、農業技術センターにて、土壌肥料分野の研究。平成8年高知県立農業大学校にて、野菜科教官を務める。平成10年 安芸農業改良普及センターにて、天敵利用技術普及活動に取り組む。平成20年 環境農業推進課環境担当チーフとして、IPM、GAPの普及に取り組む。平成27年産地・流通支援課 企画監兼次世代園芸推進室長として現在に至る。

17:00

※終了後、名刺交換会を行いますので、お名刺を多めに用意ください。

※内容の一部が変更になる場合がありますのでご了承ください。